

地域共生社会における
多様な就労困難者の効果的な就労支援
プログラム形成プロジェクト

補足資料

地域共生社会における多様な就労困難者の効果的な就労支援プログラム形成プロジェクト

プロジェクトの企画・運営

- 「効果的就労支援ガイド」(効果モデル試行版) : ユニバーサル志縁センター
- 福祉課題への変革プログラムに取り組む実践家と組織の評価キャパシティ形成法の開発研究班: プログラム評価専門家集団

⇒(1)「効果モデル」の普及 (2)調査研究による「効果モデル」の検証 (3)「効果モデル」を使った取り組み促進

(1)参加団体募集

(2)団体向け説明・研修

(3)団体の取り組み方針作成 ほか

「効果的就労支援ガイド」を使った取り組みと評価・コンサル【前半の団体群】

当初の方針に沿った取り組み

【団体活動・相談者等の調査】

調査(1)

調査(2)

調査(3)

前期の成果を継承した取り組み

「効果的就労支援ガイド」を使った取り組みと評価・コンサル【後半の団体群】

前期の成果を継承した取り組み

「効果的な就労支援プログラム形成のためのマニュアル」(案)の検討～作成

「効果的な就労支援プログラム形成のためのガイド(効果モデル試行版)」(概要)

～地域の特性や事情を踏まえた就労支援の機能強化を図るための事業評価及び改善の進め方～

※従来の「自立相談支援事業評価実践ガイド」を標記「効果的就労支援ガイド(効果モデル試行版)」に作り変える

【構成】

はじめに

(1)「効果的な就労支援プログラム形成のためのガイド(効果モデル試行版)」(以下「効果的就労支援ガイド」)とは…

(2)就労支援をめぐる状況、期待ほか

(3)事業成果を高めるための評価及び改善を継続して進めるには…

(4)目標設定、活動とその結果、実現できた効果を定期的に評価し、相談支援の改善を進めるとともに、事業・活動の有効性を提示し、必要な支持・資源を獲得する(支援プラットフォームの強化)

1 多様な就労困難者のための効果的就労支援プログラム形成のためのガイド(効果モデル)と効果的援助要素の開発
「効果的就労支援ガイド」について

2 同ガイドを使って活動の状況进行评估する

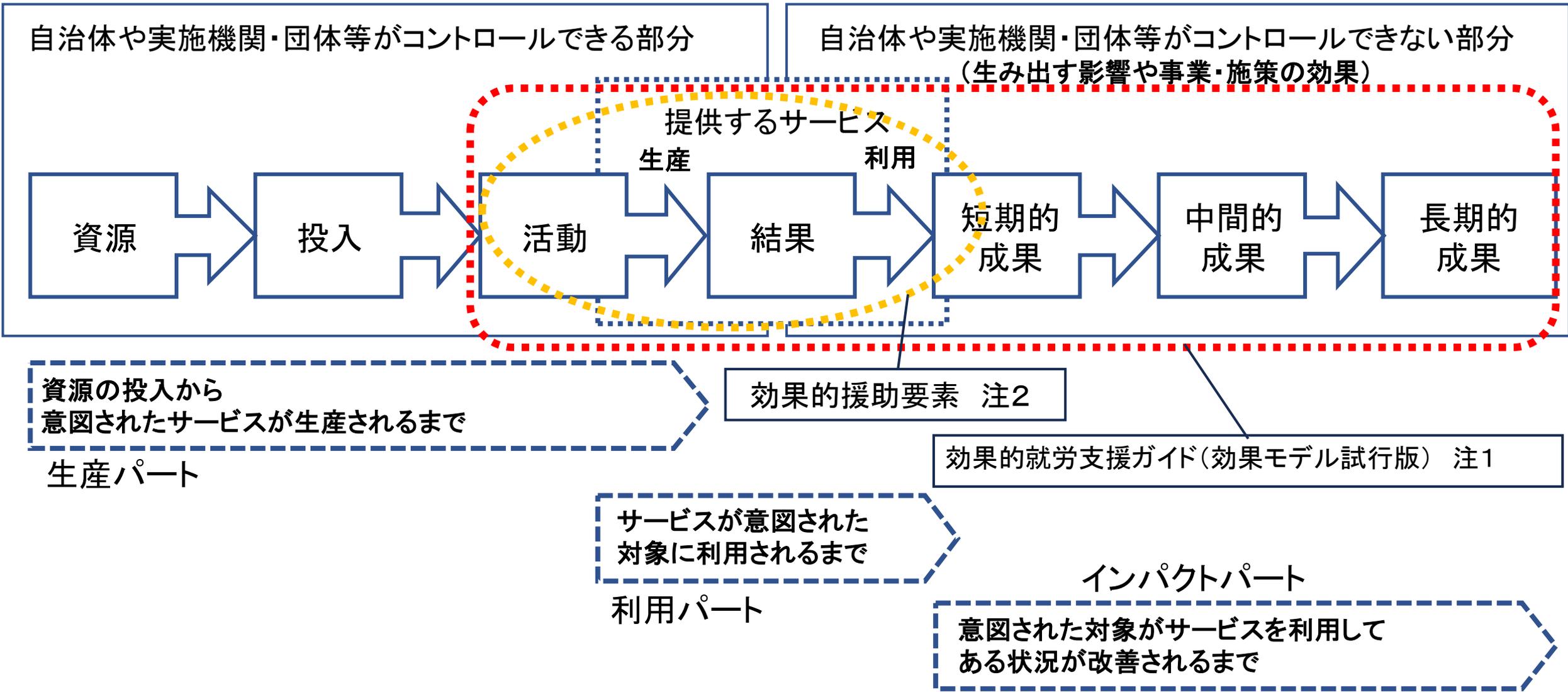
3 同ガイドを使って事業成果进行评估する

4 活動の改善、資源の獲得、意図する結果や効果の創出に向けて

参加団体の上記2、3の取組み、データをもとに、統計的手法を使い、団体ごとの事業評価(プログラム評価)や効果モデルの有用性などを検証する

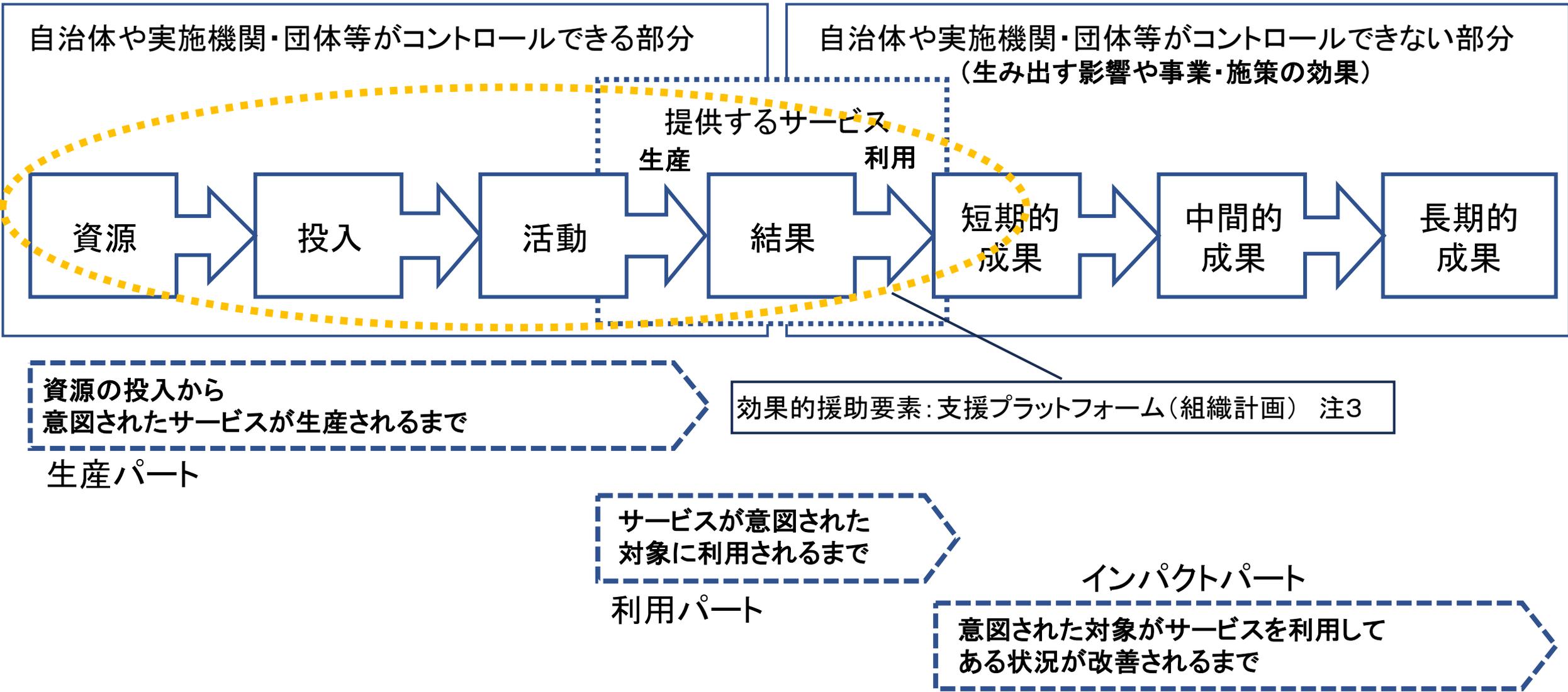
多様な就労困難者のための効果的・就労支援プログラム形成のためのガイド(効果モデル)

投入⇒活動⇒結果⇒成果という一連の流れ・道筋を明らかにする(ロジックモデル)



多様な就労困難者のための効果的かつ就労支援プログラム形成のためのガイド(効果モデル)

投入⇒活動⇒結果⇒成果という一連の流れ・道筋を明らかにする(ロジックモデル)



事前(8月)

中間(2月)

事後(8月)

効果モデル, 評価キャ
パシティ支援法の構築

説明会の開催

AG

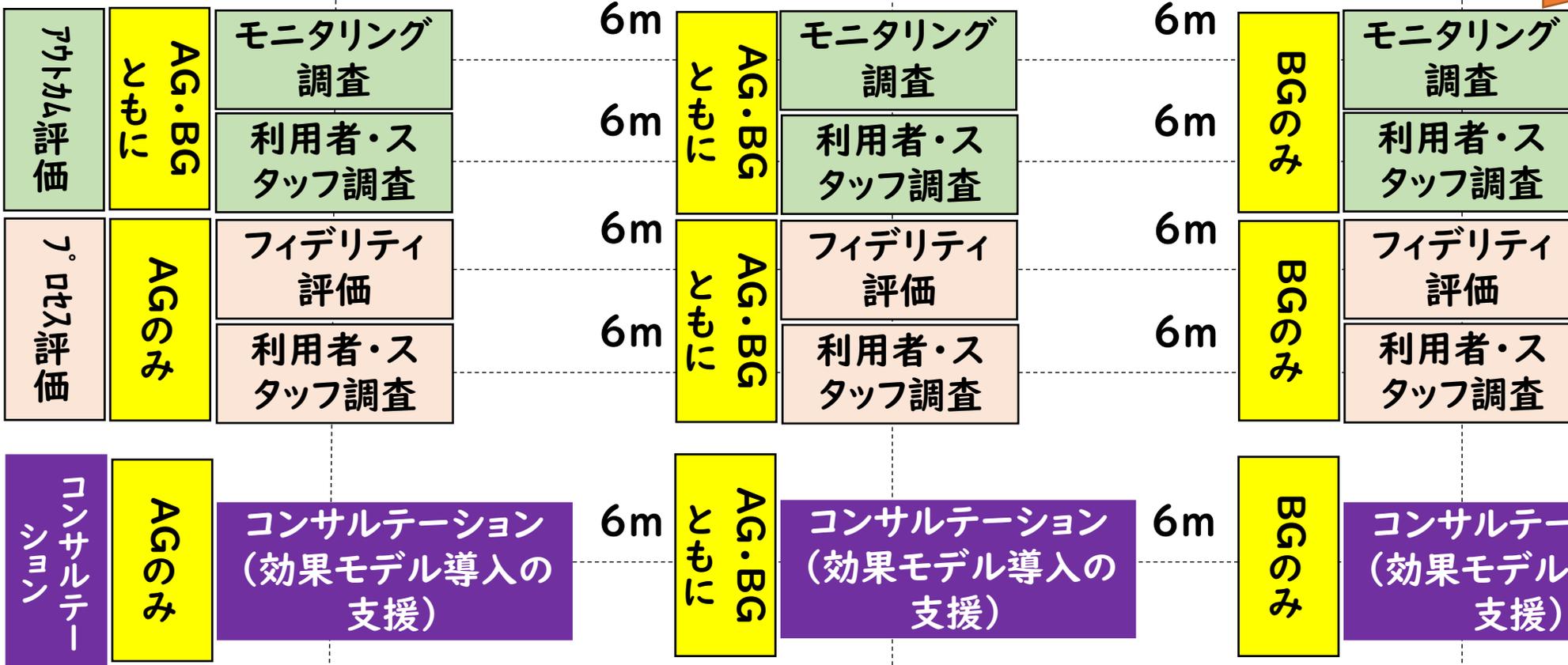
効果モデル実施

説明会の開催

BG

効果モデル実施

介入研究期間
(最初の6か月
間) 経過後は統
制群にも効果モ
デルを提供



実践家参画型WS

実践家参画型WS

試行評価調査の概要：参加団体が分担すること、参加団体へのサポート等

‘23. 8～

‘24. 2～

‘24. 8～

団体が分担すること

アウトカム評価

前期・後期団体ともに

事業所調査

利用者調査・スタッフ調査

前期・後期団体ともに

事業所調査

利用者調査・スタッフ調査

後期団体のみ

事業所調査

利用者調査・スタッフ調査

プロセス評価

前期団体のみ

フィデリティ調査

利用者調査・スタッフ調査

前期・後期団体ともに

フィデリティ調査

利用者調査・スタッフ調査

後期団体のみ

フィデリティ調査

利用者調査・スタッフ調査

団体へのサポート

- (1)効果モデル導入
- (2)コンサルテーション
- (3)実践家参画型WS等

前期団体のみ

(1)効果モデル導入

(2)改善等のコンサルテーション

(3)実践家参画型WS等

前期・後期団体ともに

(1)効果モデル導入

(2)改善等のコンサルテーション

(3)実践家参画型WS等

後期団体のみ

(1)効果モデル導入

(2)改善等のコンサルテーション

(3)研修、団体間交流等

研究班活動

試行評価調査の概要：参加団体が分担すること、参加団体へのサポート等【解説】

1. 試行評価調査の目的・目標

- 効果的プログラムモデルに基づくコンサルテーションを実施させていただくことで、実践現場の取組みの強化に貢献することを目指します。
- 比較対象を設けた厳格な有効性の評価研究をとおして、効果的プログラムモデルの有効性を明らかにすることを目指します。

2. アウトカム評価とは

- アウトカム（結果）とは、効果モデルを実践に取り入れて頂くことで向上を目指す、支援実施組織・地域及び相談者様の良い変化を意味します。
 - 本試行評価調査においてはこうしたアウトカム（結果）を①事業所調査、②相談者調査にて測定します（なお、これらの調査票は現在内容の微修正を検討中です）。
- ※ アウトカムの測定は、前期団体は2023年8月（開始時）と2024年2月（終了時）、後期団体は2024年2月（開始時）と2024年8月（終了時）に行っていただきます。

3. プロセス評価とは

- プロセス（過程）とは、効果モデルの実施状況、実施程度を意味します。
 - 本試行評価調査においてはこうしたプロセス（過程）を効果モデルフィデリティ尺度にて測定します（なお、この調査票も現在内容の微修正を検討中です）。
- ※ アウトカムの測定は、前期団体は2023年8月（開始時）と2024年2月（終了時）、後期団体は2024年2月（開始時）と2024年8月（終了時）に行っていただきます。

試行評価調査の概要：参加団体が分担すること、参加団体へのサポート等【解説】(続き)

4. 参加団体へのサポート等

4-1. 効果モデルの導入とは

- 効果モデルの導入とは効果モデル実施マニュアルを参照いただきながら、このマニュアルに掲載している効果的援助要素を実践に取り入れていただくことを意味します。

4-2. 効果モデルを活用した相談支援の改善等のコンサルテーションとは

- 効果モデルの導入にあたって研究班の方からそのためのコンサルテーションを実施します。その手順は、①フィデリティ尺度をチェックし、自機関・地域の強み・弱みを把握します、②チェックしたフィデリティ尺度を研究班事務局に返送します(その際、何か相談したい事項があればその旨を記載し、お送りください)、③研究班でコンサルテーションの担当者を選定し、貴機関・地域をご訪問し、戦略プラン・実施プランを使用して、コンサルテーションを行います、④コンサルテーションの結果をフィードバックシートにまとめ、ご報告いたします。

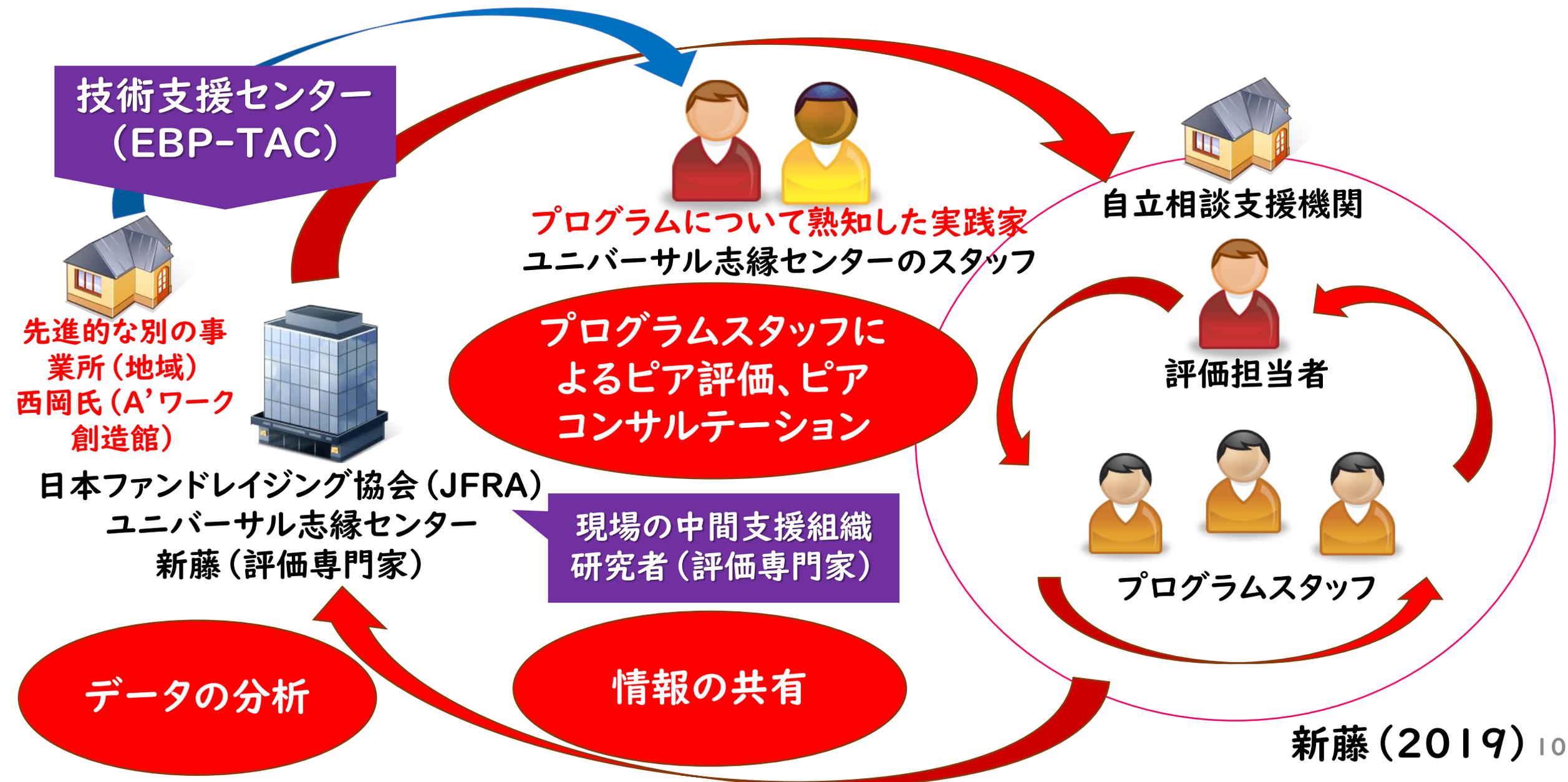
※ コンサルテーションは、前期団体は2023年8月(開始時)と2024年2月(終了時)、後期団体は2024年2月(開始時)と2024年8月(終了時)に行います。なお、様々な状況を勘案し、Zoom等によるオンラインでの実施も検討します。

4-3. 実践家参画型ワークショップ

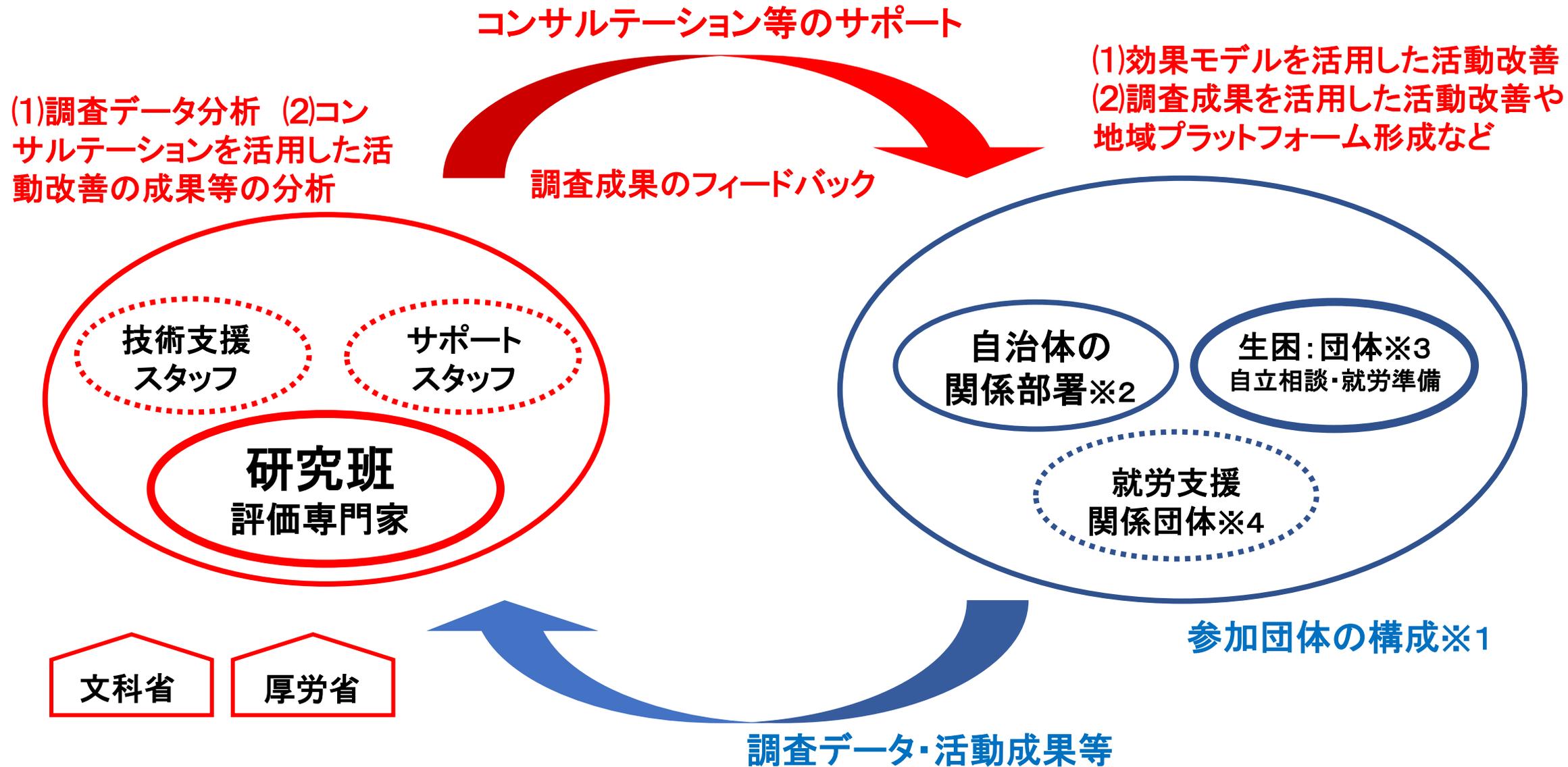
- 試行評価調査にご参加頂いている機関・地域の皆様間の交流、情報交換を目的に、皆様が集い、議論する機会を設定します。このワークショップで試行評価調査の途中経過もご報告いたします。

※ 実践家参画型ワークショップは、前期団体は2023年11月(取組みの中間時点)、後期団体は2024年5月(取組みの中間時点)に行います。なお、様々な状況を勘案し、Zoom等によるオンラインでの実施も検討します。

試行評価調査の実施体制



試行評価調査:実施体制



試行評価調査：実施体制【解説】

※1 参加団体の構成

①自治体の関係部署 ②生活困窮者制度：自立相談支援機関、就労準備支援機関 ③その他の就労支援に取り組む団体等。本調査にかかる窓口として、①または②の機関を予定

※2 自治体の関係部署

生活困窮者制度の担当部署、重層的支援等の担当部署、その他、就労支援の関係部署

※3 生困：団体＝生活困窮者制度の自立相談支援と就労準備支援を担当する機関・団体を予定。事業所調査・利用者調査、スタッフ調査を分担していただくほか、効果モデルを活用して活動等の改善を進めていただく予定

※4 就労支援関係団体＝地域には、就労支援のさまざまな活動があります。本調査の趣旨（就労支援の地域プラットフォーム形成等）に賛同し、①※3の調査のへ協力や効果モデルの活用など、②実践家参画型ワークショップ等への参加など、をしていただく